

## 指定管理者評価表

## 1 基本情報

<b>(1) 公の施設の名称</b>	
堺市立梅文化会館	
<b>(2) 施設の設置目的</b>	
市民文化の創造及び振興に寄与すること	
<b>(3) 所管部局</b>	
文化観光局 文化部 文化課	
<b>(4) 指定管理者名</b>	
公益財団法人堺市文化振興財団	
<b>(5) 指定期間</b>	
平成27年4月1日から令和2年3月31日まで(5年間)	
<b>(6) 主な事業</b>	
<ul style="list-style-type: none"><li>・貸館業務をはじめとする施設の管理運営に関すること</li><li>・ホールなどを活用した文化芸術振興事業を行うこと</li><li>・施設設備の維持及び修繕等、保守管理に関すること</li><li>・消防訓練や避難経路の確保を行い緊急時の対応に備えること</li><li>・市から貸与を受けた備品を適切に管理すること</li><li>・利用者の意見を管理運営に反映させるため、アンケート等による意見聴取を行うこと</li><li>・自主事業に係る業務に関すること</li></ul>	
<b>(7) 有料施設の有無</b>	
有(利用料金制)	
<b>(8) 公募・非公募の別</b>	
公募	
<b>(9) 主な利用者</b>	<b>(10) 市内における受益対象者数</b>
市民	不特定多数
<b>(11) 近隣の類似施設名及び当該施設の評価に用いられている指標</b>	
和泉シティプラザ	

## 2 管理運営状況

## (1) 特筆すべき事項 (地域貢献等の実績、取組、成果等)

利用者のニーズや地域の特色を踏まえたうえで、朗読発表会や文化講座など、市民参加型の事業を積極的に実施し、地域密着型の文化会館として市民の文化活動の促進を図っている。

## (2) 利用者サービス

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
指定管理者名	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団
ア 利用者数 (人)	176,242	187,731	177,946	146,162	
利用者数の算出方法	文化芸術振興事業、自主事業、貸館事業等で桐文化会館を利用した人数				
市による状況分析	施設稼働率及び主催事業の券売率の低下に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により前年度から減少したと考えられる。				
イ 稼働率 (%)	80.6	81.5	79.7	75.5	
稼働率の算出方法	ホールや生涯学習施設 (諸室) 等における指定管理者主催事業や貸館事業等による稼働率				
市による状況分析	利用者の高齢化に伴う利用回数の減少や新型コロナウイルス感染症の影響により前年度から減少したと考えられる。				
ウ 利用者満足度 (%)	88.8	82.6	85.0	82.5	
利用者満足度の測定方法	主催事業の入場者及び貸館利用者合わせて1,840人からアンケートを回収し、5段階評価のうち3 (普通) 以上を満足として測定				
市による状況分析	前年度から2.5%減少しており、主催事業の内容やスタッフの対応については高評価を得ているが、施設の老朽化による利用者の不満が多数あった。				
(3) 管理体制等					
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
ア 職員数 (人) ※各年度4月現在	13	13	13	11	10
イ 職員研修 (回) ※令和元年度は予定回数	12	11	16	11	10
ウ 要望、苦情等 (件)	0	0	1	0	—
エ 事件、事故等 (件)	0	2	2	1	—
市による状況分析	重大な事件・事故等なく管理運営できている。				

## (4) 収支状況(単位:円)

## ■ 指定管理業務

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(予算)
ア 収入	指定管理料	90,873,000	90,846,000	90,820,000	91,634,000	100,321,000
	利用料金	25,359,467	26,111,728	24,721,086	16,895,898	18,662,000
	負担金	0	0	0	0	0
	その他収入	11,037,018	10,473,697	12,670,079	11,224,674	6,670,000
合 計		127,269,485	127,431,425	128,211,165	119,754,572	125,653,000
イ 支出	人件費	39,216,549	41,743,942	41,390,754	40,044,482	36,327,000
	委託料 ( )内は総支出額 に占める委託料の割合	53,649,739 (40.6%)	55,294,602 (40.6%)	54,584,463 (40.0%)	52,161,426 (40.6%)	48,574,000 (38.7%)
	修繕費	1,283,256	1,939,817	1,769,526	1,174,137	6,410,000
	光熱水費	27,971,844	27,396,146	28,429,336	25,936,560	26,033,000
	その他経費	9,888,367	9,974,218	10,376,010	9,120,930	8,309,000
合 計		132,009,755	136,348,725	136,550,089	128,437,535	125,653,000
利用者一人当たりの支出額		749	726	767	879	—
ウ 収支差額		-4,740,270	-8,917,300	-8,338,924	-8,682,963	0

エ 市への納付金の額	—	—	—	—	—
オ 徴収委託の場合 の徴収額	—	—	—	—	—

市による状況分析	光熱水費の削減等により支出額が減少したが、新型コロナウイルス感染症の影響により約300万円の利用料金の還付があり、全体としては引き続き赤字となった。新型コロナウイルス感染症の拡大状況を注視しつつ、稼働率の向上やホール事業等の券売数を増加させる必要がある。
----------	---

## ■ 自主事業 (有)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(予算)
ア 収入	6,786,401	6,013,190	4,505,242	4,693,407	4,722,000
イ 支出	6,257,475	7,001,894	4,259,041	4,274,273	4,657,000
ウ 収支差額	528,926	-988,704	246,201	419,134	65,000
エ 市への納付金の額	—	—	—	—	—
オ 事業数(回)	13	8	10	7	
カ 参加者数(人)	1,702	1,692	5,418	2,301	

主な自主事業	桐文朗読発表会、各種文化講座等
--------	-----------------

市による状況分析	前年度に比べ参加者数は減少したものの、実施事業の見直しにより黒字幅が増加した。
----------	---

### 3 目標管理、評価等

#### (1) 適正な管理運営の確保

<b>目標管理</b>	評価の指標	①ホール活用事業：「鑑賞型」「参加型」「普及型」公演事業の年間実施回数 ②生涯学習施設活用事業：年間実施回数	(設定理由) 市民文化の創造及び振興に寄与するための施設としての適正な管理運営の確保を評価する指標であると考えられるため。
	目標	①6回以上 ②12回以上	(設定理由) ①2ヶ月に1回②月1回程度実施するものとして目標値を設定している。
	実績	①12回 ②176回	(分析) ※目標未達成時は詳細な原因分析 目標を大幅に上回った。

ホール活用事業(回)

年度	28	29	30	元
回数	13	17	12	12

生涯学習施設活用事業実施回数(回)

年度	28	29	30	元
回数	120	169	198	176

平等利用、維持管理、人員配置、事故対応、安全・緊急時対策等に関する特記事項	施設の建築年から30年以上が経過し、経年劣化による故障等が発生し11カ所修繕した。堺市が工事する場合は、適切に協力し対応した。
---------------------------------------	---

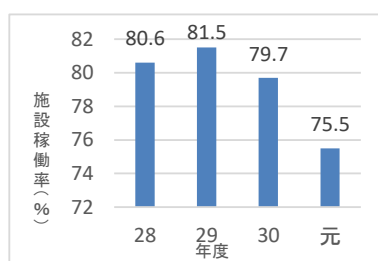
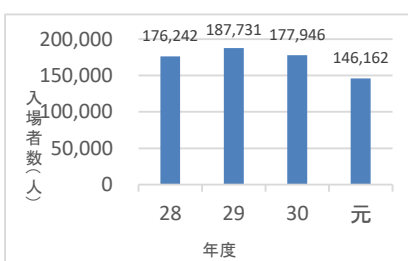
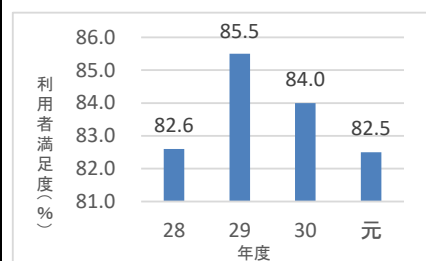
利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応	特になし
-----------------------	------

<b>評価等</b>	指定管理者の自己評価	市の評価	
	評価	B	B
	具体的な理由	事業回数は目標を大幅に上回るとともに、多様なジャンルの事業を実施した。また、毎年実施している事業については、桐文化会館の名物イベントとして徐々に定着しつつある。	ホール活用事業、生涯学習施設活用事業ともに、市が求める目標を大幅に上回る回数の事業を実施した。また、中高生を対象とした自習室の無料開放や高齢者層をターゲットとした音楽イベントなど幅広い年齢層に向けた事業を展開している。
対応策等	令和2年度はホールの工事に伴う休館もあるが、高齢者に人気のある寄席や地元の小学校との協働事業など幅広く事業を実施する予定としており、顧客獲得などに努める。	利用者のニーズに合わせた主催事業の展開や料金設定を検討することも必要ではあるが、長期的な会館運営の観点から、子どもや若い世代がさらに参加しやすい企画展開を工夫されたい。	

<b>評価基準</b>	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの

(2)利用者サービスの向上への取組

目標管理	評価の指標	①利用者満足度 ②入場者数 ③施設稼働率	(設定理由) 施設の利用し易さ、又は施設で行う事業の魅力を反映しやすい指標として考えられるため。
	目標	①90% ②16万人 ③80%	(設定理由) これまでの実績を踏まえた目標値を設定している。
	実績	①82.5% ②146,162人 ③75.5%	(分析) 入場者数及び施設稼働率は新型コロナウイルス感染症の影響により目標に達しなかった。また、設備の老朽化により利用者満足度の低下につながったと考えられる。 ※目標未達成時は詳細な原因分析



利用者サービス、利用促進、自主事業、人権尊重に配慮した情報提供、利用者意見・要望の反映等に関する特記事項	会館を普段利用している文化サークルが、活動の成果を発表できる機会として「フェスティバルin梅」を開催し、梅文化会館への愛着と利用者の達成感を醸成した。
--	---

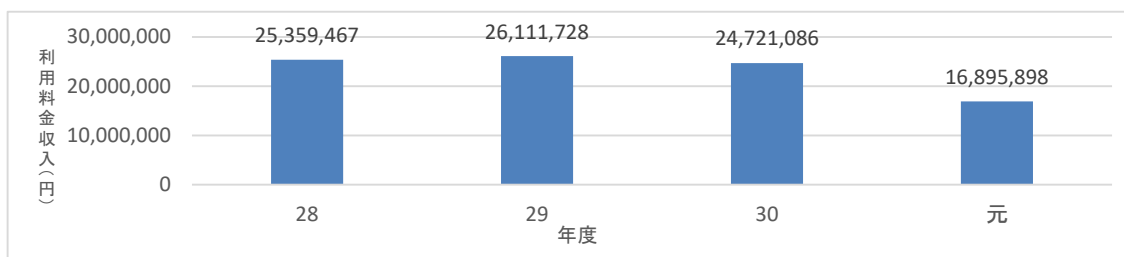
利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応	イベントごとに利用者からアンケートで意見を聴取することで、利用者のニーズを把握し、それに合った事業を展開した。
-----------------------	---

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価		
	評価	B		B	
	具体的な理由	入場者数が前年よりも約3万人減少している。地域住民の高齢化による利用者減に加え、館主催の事業における観客動員数の不振も大きい。また、2～3月期には新型コロナウイルス感染症の影響で入場者が激減した。		利用者満足度については、開館から30年以上が経過し、施設の老朽化等による利用者の不満が反映されたものと考えられる。また、入場者数及び稼働率については、例年ほぼ目標を達成しているものの、新型コロナウイルス感染症の影響により未達成だったと考えられる。	
対応策等	新聞へのイベントチラシ折込など、費用対効果が期待できる広報を行う。また、これまでの事業面をスクラップ&ビルドし、「手ごろな価格のハイクオリティ・イベント」の実現化を図る。		指定管理者は、より適切に施設を利用・補修していくことで、今後とも長期に渡って施設を利用できるよう努められたい。また、市と連携し、必要な設備の更新に協力されたい。		

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80～100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの

(3) 収支の実績

目標管理	評価の指標	利用料金収入	(設定理由) 指定管理者において営業努力が反映されやすい指標のひとつとして考えられるため。
	目標	26,500千円	(設定理由) これまでの実績を踏まえた目標値を設定している。
	実績	16,895,898円	(分析) ※目標未達成時は詳細な原因分析 新型コロナウイルス感染症の影響により貸館のキャンセルが多数発生したことから利用料金収入が低下したと考えられる。



収入増加のための取組、収支状況、経営状況、経理事務等に関する特記事項	主催事業の観客動員数を増やすため、広報周知に努めるなどの改善が必要である。
------------------------------------	---------------------------------------

利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応	特になし
-----------------------	------

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価	
	評価	B		B
具体的な理由	集会室・ホール等の利用者減に伴い利用料金収入が減少している。新型コロナウイルス感染症の影響で貸館のキャンセルが相次いだ上に、2月29日以降文化講座をすべて中止したこともあり、利用料金収入及び入場料収入は大きく落ち込んだ。今後も、高齢化により大幅な利用者・利用料金収入増は見込めないため抜本的な解決策を見出さなければならない。		光熱水費等の経費が大幅に削減されたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、施設利用料金収入が大幅に減少したことにより、例年と同様収支が赤字となっている。	
対応策等	収支面での負担が大きい「光熱費」、「老朽化による修理・修繕」面でのコストダウンを徹底する。主催事業面では、観客動員数・売上増に向けたSNS(Facebook)の活用、および近隣住宅へのチラシのポスティングなど新旧織り交ぜた広報強化を実施する。社会福祉施設へのお出かけシアターなど社会包摂を視野に入れた新しい企画も計画している。		比較的稼働率が低い平日や夜間帯の稼働率を上げることで利用料金を増やすとともに、主催事業の内容を更にブラッシュアップしたり、様々な宣伝媒体を活用するなどによって入場料収入を増やすよう努められたい。	

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの